

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 4 号

令和5年 10月4日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

9月 6日(水)

提案 佐藤 安世 先生(北綱島小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 高森 太郎 先生(大鳥小)

記録 宮崎 智明 先生(杉田小)

1 提案内容 単元名

単元名「鶴見川とともに生きるわたしたちに必要なこと」

～自分のくらすまちで想定される水害を知って、備えよう～

2 提案者より

3年の総合的な学習の時間で、鶴見川を学習しており親しみがある。児童は、江戸時代より鶴見川の改修などに大きく貢献した2つの旧家、北(北綱島村名主)の飯田家、南(南綱島村名主)の池谷家の子孫とこれまでに交流がある。

4・5時間目に「あばれ鶴見川」と呼ばれていた過去の鶴見川に対して、当時の人々がどのような治水対策をしたか、資料をもとに調査活動をする。現在の鶴見川を見る上でも内容を疎かにしたくないが、内容や資料の読み取りはそのままでは難しいため、事実の見せ方に工夫を感じている。先人の苦勞のもとに今の鶴見川が存在しており、なおかつ、現在も多目的遊水地の働きもあるが、地域(横浜市)だけでなく、他の地域(東京都)などの協力もあって、水害から守られていることに気付いてほしい。

3 協議会より

①材(鶴見川)について

・3年生の時にも社会や総合で扱っており、児童に身近な鶴見川を材に扱うのは最適なのではないか。

②4・5時間目の扱いについて

- ・単元の最後に気づかせたいゴールに向けても、現在を知るために過去を調査活動することは大切であるが、過去と現在の学習の比重を同じにする必要があるのかどうか。
- ・過去は、知識として事実を伝える(教える)でもよいのかもしれない。

<講師の先生より> 西富岡小学校 黒田 由希子校長先生

- 資料をいかに精選と簡素化するか。佐藤級の児童が「これがいい!」と、自分で選択したりするなど、児童の実態にあったものにする。
- 4・5時の「あばれ鶴見川」と呼ばれていた川に、これまでどんな対策をしてきたのだろう。」を縮小して、6時の「区役所の防災担当のKさんは、鶴見川の被害を減らすためにどんな仕事をしているのだろう。」を掘り下げてみてはどうか。鶴見川の被害を減らすために〇〇している。という事実に対して、学習を掘り下げて事実とのギャップを児童がつかんでいくことで、本気の学習問題が生まれてくるのではないか。

文責 佐藤 安世 (北綱島小学校)